

生き方を見つめて読もう（５年）

『大造じいさんとがん』

●指導目標

登場人物の生き方に共感しながら，作品を深く読み，感想をもつことができる。

- 登場人物の行動やせりふから，心情の変化を読み取ることができる。
- 登場人物の生き方についてのプレゼンテーションを通して，登場人物の物の見方や考え方，感じ方を見つめることができる。

●教材について

場面の情景や人物の心情の移り変わりをきめ細かく読み深め，登場人物の生き方にふれる单元である。物事を客観的に見つめることのできるこの時期に，登場人物の物の見方や考え方，感じ方に触れることには大きな意味がある。

大造じいさんは生きるためにがんを狩る狩人として描かれ，残雪は本能にのみ従って行動する野生動物として描かれている。両者の間にあるのは，心のふれあいや結びつきではない。残雪の頭領としての自負と大造じいさんの狩人としての自負との対峙という緊張関係である。

残雪の出現によりがんを捕獲できなくなった大造じいさんは，さまざまな手段（作戦）を企てるがなかなか思いどおりにはならない。大造じいさんは，残雪を「いまいしく」思い，また「たかが鳥のことだ」と考える。しかし，はやぶさとの戦闘場面で，頭領としての自負に支えられた残雪の勇気ある行動をまのあたりにし，大造じいさんは強く心を打たれ「ただの鳥に対してのような気がしなかった」と認識が変化するのである。このとき，残雪は精いっぱい生き，人間をも超越した存在になったのである。ここに，生きることの美しさと厳しさを見いだすことができる。読者は大造じいさんとともに残雪の頭領としての威厳にひきつけられるだろう。

表現の特徴として，擬音語や擬態語，そして情景描写に多用されている色彩語がある。擬音語や擬態語は場面に臨場感を高める作用がある。色彩語は大造じいさんの心情と深く結びついている。これらを場面の情景や人物の心情の変化を深く読み取るための手だてとしたい。

生き方について考える手だてとして，人物の生き方のすごさをプレゼンテーションする活動を設定する。どちらが「すごい」かを問うことにより，読者は必然的に人物像を叙述に即して追究しなければならないだろう。

「読むこと」及び関連領域の内容

- 登場人物の心情や場面についての描写など，優れた叙述を味わいながら読むこと。 C(1)ウ
- 必要な情報を得るために，効果的な読み方を工夫すること。 C(1)オ
考えた事や自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら，目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 A(1)ア

本教材はまさに「優れた叙述」満載の文学的文章である。特に情景描写は出色である。先にあげた表現の特徴のほかに，常体による記述であることが大造じいさんと残雪の対峙により緊張感を生み出していると言える。一つ一つの叙述を，読者もある種の緊張感をもちながら読むに違いない。

読み進めながら，登場人物の生き方に共感する部分も自然に生まれる。自分の生き方と比べながら読むことで，人生について考える好機としたい。

ここでの学習が，『みずさの旅』にもつながっていく。

● 学習指導計画（7 時間）

展開・時	学習活動	留意点
第 1 ～ 2 時	○ 学習のとびらを読み，単元のめあてをつかむ。 ○ 教師の範読を聞き，感想を書く。 ・ 感想を交流し合う。	○ 叙述に即して人物の心情を読み取りながら，生き方について考えることを確認する。 ○ 文章の叙述にもとづき人物に視点をあてて感想を書くよう指示する。
	○ 起承転結の文章構成を知る。 ・ 1 の場面が「起」，2 の場面が「承」，3 の場面が「転」，4 の場面が「結」であることをとらえる。 ○ 色彩語と大造じいさんの心情との関係を読みとる。	○ 大造じいさんの心情が大きく変化しているところを検討させ，3 の場面が「転」の部分であることをつかませる。 ○ 色彩語にサイドラインを引かせ，その色が象徴する大造じいさんの心情を想像させ，話し合わせる。
第 3 ～ 6 時	○ 大造じいさんと残雪について，その人物や生き方のすごさについてプレゼンテーションする。 ・ 場面ごとにどちらかを選択する。 ・ 選択した人物ごとにグルーピングする。 ・ グループで人物や生き方のすごさが表れている語句にサイドラインを引き，どんなすごさがわかるのかについて話し合う。 ・ グループごとにプレゼンテーションする。	○ ここでのプレゼンテーションとは，「人物や生き方のすごさについて説明すること」と定義する。 ・ 1 時間 1 場面とする。 ・ グループでなく，児童の実態によっては個人でのプレゼンテーションも考えられる。 ・ すごさの根拠となる語句にサイドラインを引かせる。 ・ 抽出した語句を板書させる。 ・ 黒板を左右に分ける。 ・ 板書した語句にもとづいて，プレゼンテーションさせる。 ・ 同じ語句が板書された場合は譲り合い，重複を避けさせる。 ・ プレゼンテーションをとおしての気づきも含め，人物に対して短く感想を書かせ，発表させる。
第 5 時 (本時)	< 「起」 1 の場面 > ... 知恵比べ - 大... うなぎつりばり作戦失敗 - 残... 作戦を破るがんの頭領 < 「承」 2 の場面 > ... 知恵比べ - 大... たにし作戦失敗 - 残... 再び作戦を破る知恵者 < 「転」 3 の場面 > ... 壮絶な戦い - 大... おとり作戦・猟銃をおろす - 残... 命がけではやぶさと戦う < 「結」 4 の場面 > ... 別れ - 大... 残雪を見送る - 残... 北へと飛び去る	○ 4 場面は短いので，最後に全体を振り返り，双方の生き方について感想を書かせることも可能。
第 7 時	○ 「仮名づかいで気をつけること」を読み，言葉の学習をする。	○ 注意を必要とする仮名づかいについて，他の例がないか考えるよう促す。

●本時の展開（本時 5 / 7）

目 標

- ・ 3 の場面について，グループ単位で「大造じいさん」と「残雪」について，根拠となる叙述を明らかにしながら「生き方のすごさ」を読み取り，プレゼンテーションする活動をとおしてその生き方を見つめることができる。

評価規準

- ア 登場人物の行動やせりふから，心情の変化を想像しながら読んでいる。
- イ 友達の考えと自分の考えの共通点や相違点に着目して話し合っている。

●展開例

学習活動	学習内容・留意点	評価・支援
1 本時の学習課題を確認する。	○学習の進め方を確認する。	
「大造じいさん」か「残雪」について， すごさをプレゼンテーションしよう。		【評価ア】
2 学習場面を音読する。	・どちらがよりすごいかを考えさせながら音読させる。	登場人物の行動やせりふから，心情の変化を想像しながら読んでいる。
3 すごさを読み取る。 ・「大造」派と「残雪」派に分かれる。 ・すごさの表れている語句にサイドラインを引く。 ・グループで話し合う。 ・グループで抽出した語句を代表が板書する。 ・板書した語句から読み取れるすごさについてプレゼンテーションする。	・グルーピングする。1 グループは3～4人とする。 ○黒板を中央で左右に二分し，抽出語句を板書させる。 読み取らせたいすごさ 大：プライド。粘り。知恵。ただの獵師ではない。 受容する態度。プロ。かしこい。 残：勇気。威厳。闘争本能。立派。潔さ。強さ。英雄。	○根拠となる叙述を明らかにしながら，自分の考えをもつよう助言する。 【評価イ】 友達の考えと自分の考えの共通点や相違点に着目して話し合っている。 ○場面の情景を表す表現がないかを確認させて，その表現をもとに心情を考えるよう促す。
注目させたい叙述 大：<かた先に止まるほどになれていた><「今年は、ひとつこれを使ってみるかな」><おとりに使って><青くすんだ空><真っ赤に燃えて><わくわくしてきた><ぎゅっと><ひとあわふかせてやるぞ><くちびるを二、三回静かにぬらした><なんと思ったか><強く心をうたれて，ただの鳥に対してのような気がしなかった> 残：<ただ救わねばならぬ仲間のすがた><力いっぱい><もつれあって><なおも，地上ではげしく戦っていた><くれないにそめて，ぐったりと><正面からにらみつけた><いかにも頭領らしい，どうどうたる態度><じたばたさわがなかった><最期の時を感じて><いげんをきずつけまいと> など		
4 本時のまとめ ・プレゼンテーションをとおして人物についての感想を書く。	・プレゼンテーションをとおしての気づきも含め，人物に対して短く感想を書かせ，発表させる。	○作品中のどのような叙述に心を動かされたのかを振り返らせる。